

## 4月子育てワンポイント

# 『ことばの発達への関わり』

子どもの言葉は、ある日突然に増えるものではありません。毎日の何気ないやりとりの中や、遊びや生活の中でゆっくりと育っていきます。

おうちの方と目が合った時の嬉しさ。抱っこをしてもらえた時のあたたかさ。一つひとつの体験が、言葉の種になっていきます。ここでポイントを紹介します。



### ① 目を見てゆっくり話す

赤ちゃんは「音」よりも「表情・リズム」を感じとります。少し高めでやわらかい声が◎



### ② 子どもの気持ちを代弁する

言葉にできない思いを大人が言葉にする。「痛かったね」「とりさんがいたね」など。

### ③ 体験+ことばを結びつける

これがとても大切です。何かに触れる・見る・食べる・聴く・嗅ぐの五感で感じたことに言葉を添えることによって、言葉が育ちます。

例えば…水に触れたら「つめたいね」、花を見て「あかいね」「きれいだね」など。また「ちゅんちゅん」や「ポツポツ」などの擬音語や、オノマトペは音やリズムで覚えやすく、言葉の入り口を広げてくれる“魔法のことば”です。



### ④ 気持ちを広げる言い換え

3歳頃になると子どもは出来事だけでなく「気持ち」も少しずつ言葉にできるようになってきます。大切なことは、正しい答えを求めるのではなく、子どもの気持ちに寄り添い受け止めることです。“自分の気持ちに気づき、言葉にしてみる経験”その積み重ねが、心と言葉を育てていきます。またその経験が自信につながり、言葉で気持ちを伝える力や人と関わる力へと広がっていきます。

言葉は、安心できる人との関わりの中で、体験と共に、ゆっくりと育っていきます。特別なことをしなくても大丈夫です。一緒に感じ、ゆっくりと聴くこと。それだけで子どもは安心して、思いを表そうとします。

また言葉の育ちは一人ひとり違います。早さを比べるのではなく、お子様のペースを信じて見守ることが、豊かな言葉へとつながっていきます。

今日のささやかな声かけや、ふれあいをこれからも大事にしていきたいですね。

